早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター

創造的復興研究会・第4回研究会

議事録

日時：2022年5月16日（月）18:01-20:10

方式：Zoom

研究会メンバー（敬称略）：

研究会代表

松岡俊二：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授

研究会副代表

林 誠二：国立環境研究所福島地域協働研究拠点・研究グループ長

小野田弘士：早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・教授

研究会メンバー

南郷市兵：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校副校長（途中退出）

李 洸昊：早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・講師

佐藤亜紀：HAMADOORI 13 事務局長

島田 剛：明治大学情報コミュニケーション学部・准教授

高原耕平：ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター・主任研究員

豊田利久：神戸大学・名誉教授（途中参加）

戸川卓哉：国立環境研究所福島地域協働研究拠点・主任研究員（途中参加）

辻 岳史：国立環境研究所福島地域協働研究拠点・主任研究員

新しい研究会メンバー

洪 恒夫：東京大学総合研究博物館・特任教授

池辺 靖：日本科学未来館科学コミュニケーション専門主任

大和田徹：福島県広野町復興企画課企画振興係・主任主査

松川希映：早稲田大学アジア太平洋研究科・修士2年

高垣慶太：早稲田大学社会科学部・2年

（欠席）

遠藤秀文：株式会社ふたば・社長、福島県富岡町

林 裕文：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校教諭

小磯匡大：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校教諭

小松和真：福島県広野町復興企画課・課長

永井祐二：早稲田大学環境総合研究センター・研究院教授

岡田久典：早稲田大学環境総合研究センター・上級研究員

阪本真由美：兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科・教授

佐々木俊介：早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター・講師

除本理史：大阪市立大学大学院経営学研究科・教授

吉田 学：HAMADOORI 13・代表、株式会社タイズスタイル・代表取締役、福島県大熊町

オブザーバー

中川ちさと：明治大学情報コミュニケーション学部・3年
盛合 美月：明治大学情報コミュニケーション学部・3年

事務局

山田美香：早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・福島駐在・次席研究員
朱 鈺：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・博士課程

司会：小野田弘士（副代表）

議題：

1. 研究会メンバーの拡充について

以下の5名を新メンバーとして承認した。

洪 恒夫：東京大学総合研究博物館・特任教授
池辺 靖：日本科学未来館科学コミュニケーション専門主任
大和田徹：福島県広野町復興企画課企画振興係・主任主査
松川希映：早稲田大学アジア太平洋研究科・修士2年
高垣慶太：早稲田大学社会科学部・2年

2. 2022年度の研究計画について

今年度の創造的復興研究会は「2050年の福島浜通り社会の将来像」を考えるため、以下の4つの研究グループを置き、調査研究を進める。

(1) スモール・ビジネス起業調査計画について：山田美香

- ・山田次席研究員より、スモール・ビジネス起業調査計画について経緯および計画の説明が行われた。地域の固有性や価値に根ざした「小さな幸せ社会の形成」目指し、本年度は、まず手がかかりとして浜通りのワイン事業を対象を絞り調査を行う。事業者がどのような「地域の価値」を見出しているのか明らかにすることを研究目的として調査を実施していく。
- ・委員から、まずはワイン産業にしぼって調査研究し、あまり大規模でない浜通り版の産業集積論を発展していけば良いという意見があった。
- ・スモール・ビジネス起業調査は、研究会の産業構造、社会構造、さらに、エコミュージアム構想と関連することから、出来るだけ速やかに始動するよう調査の内容や日程については、今後、島田委員、辻委員、高原委員などと調整していく。

(2) 研究項目 1「2050年の福島浜通りの地域ビジョン」に関する「福島浜通りの産業政策研究」について：島田 剛

- ・島田委員は福島浜通りの産業政策に関する研究計画を説明した。ステップ①：既存の産業政策の効果分析。ステップ②：グッド・プラクティスな企業と企業家を特定する現地調査や必要な行政な支援について聞き取り調査。ステップ③：現地調査やインタビューなどを通して人材育成の手段の検討。
- ・委員より民間レベルの資本ストックが少ないのが浜通り地域の特徴であるとの指摘があった（製

造業集積の弱さ)。なお、町ごとの産業育成より、浜通り地域全体としてサプライチェーンや雇用などを含めた産業ネットワークを考えたほうが良いとの意見があった。

(3) 研究項目 1「2050年の福島浜通りの地域ビジョン」に関する「福島原発立地地域におけるローカル・レジームと『自治の実践』の変遷—双葉町・大熊町を事例に—」について:辻 岳史

・辻委員は浜通り地域のローカル・レジームの変遷に関する研究計画を紹介した。本研究は、原子力発電所や火力発電所を受け入れてきた企業城下町としての浜通り地域の社会構造が、原発事故の前後でどのように変遷したの、何が継承され、何が変容したのかを、データをもとに考察する。

・今後は、文献調査と町政関係者へのインタビュー調査を実施する予定である。

(4) 研究項目 2「2050年を目標とした1Fの世界遺産登録」に関する「世界遺産化をめぐる予備論点:『精神的再形成』概念を手がかりに」について:高原耕平

・高原委員は、「集合的な精神的再形成」という概念を用い、広島原爆ドームと長崎の浦上天主堂の事例を踏まえながら、1Fの世界遺産登録のベースとは何かを研究する必要があるとした。

・広島原爆ドームの世界遺産登録では、被曝の実態、核兵器の廃絶、世界平和といったことが「集合的な精神的再形成」の型枠やベースとなったと考えられるが、福島における1F世界遺産登録では、何がどのように型枠やベースを考えると重要だとのコメントがあった。さらに、1Fに対しは、多様な考え方があることから、1Fだけでなく複数の視点を表現する施設やエコミュージウム構想などに関連させることも考えるべきではとの意見もあった。

閉会挨拶:林 誠二(副代表)

3. 今後の予定、その他

5月27日(金) 18:00-20:00	第19回1F廃炉の先研究会 藤原広行・防災科学技術研究所マルチハザードリスク研究部門・ 部門長 「東日本大震災の教訓を踏まえた地震動研究の現状」
6月24日(金) 18:00-20:00	第20回1F廃炉の先研究会 竹内真司・日本大学文理学部教授(地球科学) 「地下水流動からみた福島県阿武隈山地周辺の放射性セシウムによる汚染リスク」
7月16日(土) 13:30-16:30	第1回1F地域塾@ふたば未来学園
7月31日(日) 10:00-17:00	第10回ふくしま学(楽)会(富岡町か大熊町での開催を検討中)
9月10日(土) 13:00-17:30	第2回1F地域塾@ふたば未来学園
9月17日(土) 10:10-17:00	第3回1F地域塾:1F視察
10月1日(土)	第4回1F地域塾@ふたば未来学園
10月頃	第5回創造的復興研究会
11月頃	第2回シンポジウム「広島原爆ドームの世界遺産登録と1F廃炉の将来像を考える」

以上